

## 日本で仕事をしてみて感じたこと について

姜 潤知

産業第2事業部

### ✚ はじめに

---

事例をご紹介する前に、筆者の背景について簡単にご紹介させていただきます。みなさんは今までワーキングホリデーを含め、海外で働いた経験がありますか？筆者は韓国出身で今までアルバイトや正規雇用として、韓国、そしてチェコでの就労経験があります。日本については一人旅で福岡を訪れたことしかなく、日本の生活もよくわからない状態のまま来日しました。その中で、昨年からは筆者が日本で実際に働いてみて、韓国にある企業とは何が違うのか、個人的に驚いたことや珍しく感じたこと、または少し改善してほしいことなどを中心にお話させていただきたいと思います。

### ✚ 三か月間の新人研修について

---

日本の多くの企業では、新人社員は入社後、実際に部署などに配属される前に「新人研修」を受けます。日本ではこの新人研修期間をととても大切にし、その期間を通して新人達に様々なことを教えるということに筆者は韓国との違いを感じ、驚きました。韓国では新人研修がない企業もあり、あったとしても期間は一週間を超えないのが一般的です。一般的には、新人研修はほぼなく入社早々に業務を始め、適宜質問しながら業務理解を深めていく企業が多いです。むしろ韓国の企業ではグローバル化を促進させるべきとの考えのもと、新人研修よ

りも語学研修により多くの時間を使い、積極的に研修を行います。このような違いから、最初はこの期間で何を学ぶのか心配もありつつ、とても気になりましたが実際に参加してみると、社会人として身につける基本的なマナーから、これからの業務で必要とする技術まで様々な知識を学べる時間となっていました。学生時代は特にビジネスマナーやビジネス日本語などに触れる機会が多くないため、基本的な知識やマナーを配属する前に習得するのはその後仕事をする上でも、将来の自分にとっても心強いことだと思います。筆者も日本にある企業の文化を直接感じる事ができたので新入社員にとってはすごく役に立つシステムだと思います。

一つ思うところがあるとすれば、例えばプログラミング言語学習についていうと、研修が目指す方向としてはいいと思いますが、部署によっては研修で学んだことがない言語を使うことが多い場合もあります。実際に、筆者が研修で学んだことを振り返ってみると研修ではできる限り様々な言語に触れてみることを目指しているのですが、業務で問題なくプログラミングができるかどうか不安でした。現場に配属されてからも最初は心配が続きましたが、プロジェクトメンバーや上司からのフォローがすぐ入って大変助かりました。しかも、筆者のために社員向けの様々な講座を紹介してくださいました。それを見て分からなかったところをまとめて質問を投げたところ、みなさんが筆者に分かりやすく説明してくださったので新入社員にとっては手厚いサポートだと思い、安心できました。もちろん、期間中には配属される前に様々な言語に触れて学習する、というのもこれからの役に立つとは思いますが、すべてを理解するのは時間が足りないのが、研修が終わった後も、個別に時間をかけて勉強する必要もありました。弊社で受けられる社員向けの講座以外に、自ら他の講座や参考書などを探して読んで勉強したうえ、分からない用語や流れなどをまとめて先輩に随時質問することで前に進みました。多くの日本企業では配属先部署を決定する前に研修が行われるので、研修中に様々な言語をできる限り早く学習しないといけないのは仕方ないこととは思いますが、研修の内容を少しずつ柔軟に変化させていくことによって新人にとってより意欲を高めることができると考えます。

## 「報連相」を大事にする社風

筆者は日本企業で最も大切にされていることは「報連相」だと思います。韓国企業と比較して、日本の企業では会議が非常に頻繁に行われます。最初は会議での報告以外にも日報提出まであることを知って、日本はどんな形でも報告や会議などをすることが多い社会だと実感しました。これに関しては、企業によって違うのもありますが筆者が働いていた韓国にある企業ではだいたい週に一度くらいで会議が行われ、それも一時間を超えたことはほぼありませんでした。もし必要であれば適宜お互い会話を通して問題を解決していましたので、報告や会議が多い日本企業の雰囲気慣れるまで時間がかかりました。

何故日本にある企業では報告することを大事にしているのか、そしてどのような効果があって重視しているのかなどを考えてみました。筆者が思った日報の効果はやはり自分が当日どのような仕事をしていたのか、またはスケジュール通りに業務をやり遂げたのか振り返る時間ができて一日が無事に終わる感覚を感じることができることです。後、日報以外にも朝会や夕会など色んな会議を定期的に行っているため、仕事をしているうえに漏れがないか、業務の進捗状況をリアルタイムで共有し、困っていることがないのかなどチェックしているので新人社員としては助かるのもあります。報告に関しては新人だけではなく社員みんながやることとして進んでいるので、お互いのためにも必要なことだと思いました。筆者は韓国にある官公署で働いたことがあります。そこでは定期的に会議を行うよりも随時会議を行いながら業務を進めていました。ただ、筆者が韓国にいたときに同じ IT 企業で働く機会があったら弊社みたいに頻りに会議が行われたかもしれません。企業によって社内の雰囲気も違うのもあるのではっきりこれが正解！とは言えないと思います。しかし国によって、企業や業界によってそれぞれ違う形で会議や報告が行われる可能性があると思います。

## ✚ 仕事をして何が良くて、何が苦しかったか

---

筆者が弊社で仕事をしているうえで一番良かったと思ったのはお互い励ましながら仕事を進んでいく雰囲気でした。なによりも業務に必要な資格を取得できるように社員みんなが受験できるチャンスを与えることや、資格取得奨励金を提供して意欲をあげることなどはいい文化だと思いました。たった一人で受験することになったらそこまで意欲が上がらないのもありますが、みんなと一緒にやっていることを知っているのと意欲も上がるのでお互い応援しあっている気持ちになるのも期待できます。日本にある全ての企業で同じことをやっているのかは不明ですが、より多くの社員が受験して自分のキャリアアップや会社の成長に向けて進めるのは大体同じだと思います。

また、研修のときにも感じたことなのですが、社員向けの講座がたくさんあって活用できるのも資格の勉強や業務の理解などを深めることができるのでよかったです。韓国にある企業の場合も様々な講座が用意されていますが、日本企業と比べると、日本企業の方がより積極的に講座の活用をしていると感じました。経験者にも役に立つとは思いますが、まだ実務や業務に必要な知識など慣れてない新人社員にとってはより役に立つし補足で勉強したいときもすぐ学習できるためいいと思います。講座の内容は豊富で学びたい内容があれば検索するだけで見つけやすく、学習してわからない内容があれば質問もしやすい環境です。このようなバックアップ制度がみんなにとって効率的だと思いました。

別の話になりますが、筆者は日本にある企業で働いて個人的に今も苦労していることがあります。筆者は元々英語の発音を知っているため、英単語のカタカナの読み取りや発音になかなか慣れることができず、今でも度々苦労する場面があります。韓国の場合は、普通の英

語そのままの発音をしていたため大変なことは特になかったですが、日本にある企業では英語の発音をカタカナで変換して発音しているのもその意味を理解するのが大変でした。配属されてチームメンバーが作業を説明している間に発音や単語の意味を勘違いしてしまい、業務に差し支えがあった時もありました。しかし、筆者も今まで做っていた習慣を変えるのは難しくどうすればいいのか心配もありましたが、チームの方々はこの事情を知ってから作業の説明の際には、何か困ったら英単語を見つけて説明してくださり大変助かりました。現在は、なるべくカタカナを理解するようにイントネーションをよく聞きながら頑張っていますが、無理やり習得するとより問題が起こると思ったので自然に習得するようにしています。

## ✚ おわりに

---

今回、日本と韓国の企業の違いや日本企業で働きながら思ったことに対して改めて考える時間を持つことができ楽しかったです。最初、記事を作成する前までには韓国にある企業と比べて特に違いがそこまであるのか筆者も不明でしたが、筆者の経験から見てみるとやはり仕事をするうえでお互い重視している観点が違うところに改めて気付く機会となりました。本文でも述べましたが、日本の企業ではなによりも報告することを大事にしているため、仕事を進んでいることは途中で業務に関する認識の間違いないのかなどを事前に防いで、より正確さを上げていたと思います。さらに、定期的な会議を通じて仕事の漏れや困っていることをチェックしながら、一人一人が遅れないように気を使ってくれる環境も良い点だと思います。また、新人研修に対しては韓国だけではなくほかの国よりも日本のほうが大事に思っているため、ビジネスマナーから始め業務に必要な知識まで軽く学べるようにしてくれる制度はこれから入社する社員に向けて心強い制度になると思います。

最後に、これから入社する外国人社員の皆様へ。母国で就職したことがある、多国語ができるなどいろいろな経験や知識があると思います。そこから、母国にある企業ではやったことがないことや、自分の視線で見るとあまり効率的ではないことなど慣れないことがたくさんあるかもしれません。その違いについて無理やり納得して理解しようとするよりも微かな違いがあってそれを柔軟に受け入れればどんどん慣れていくと思います。確かに、文化の違いも存在しているため日本の環境に慣れるまで時間がかかるかもしれませんが、仕事をしているときに大変なことや悩みがあればチームや上司に相談に乗っていただくこともおすすめの一つです。全く新しい環境で始まる生活に不安や心配もあると思いますが、焦らずに今できることをゆっくりして自分のペースで進んでください。

## GSLetterNeo Vol.188

2024年3月20日発行

発行者 株式会社 SRA 技術本部 先端技術研究室

編集者 熊澤努 方学芬

バックナンバー <https://www.sra.co.jp/public/sra/gsletter/>

お問い合わせ [gsneo@sra.co.jp](mailto:gsneo@sra.co.jp)



株式会社SRA

〒171-8513 東京都豊島区南池袋 2-32-8

夢を。



夢を。Yawaraka Innovation  
やわらかいのべーしょん